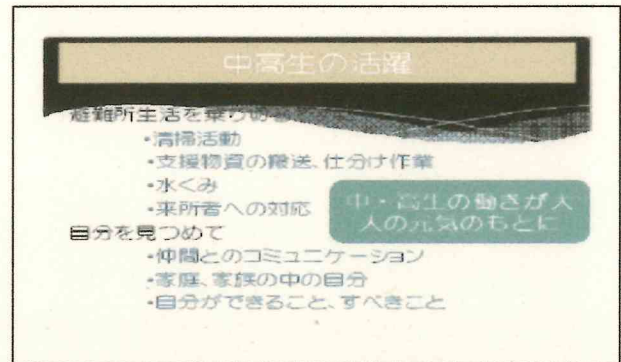


2200日の物語 ～芝根の名のもとに～

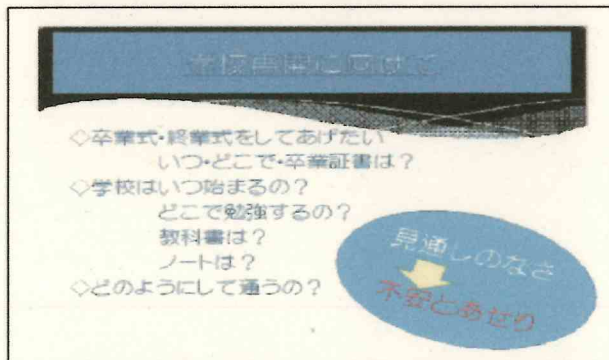
第44話 (R04.03.04)

～ 避難訓練のお話 続き～

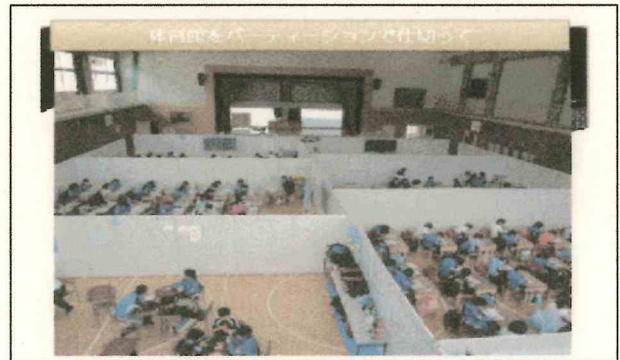
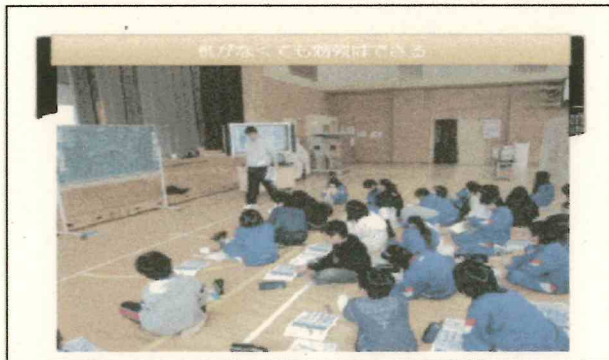
中学生や高校生がボランティアで活躍しました。掃除、届いた食べ物などを分ける、水くみなどをしました。



避難所で卒業式をしました。地震発生後の40日後に、学校を再開しました。



机がなくても学習はできます。体育館を区切って、授業です。



支援物資が届いたり、仮設校舎ができたりしました。仮設住宅で、学習をします。徐々に行事を再開しました。



この地方には、昔から、「津波てんでんこ」という言葉があります。命を最優先にして、バラバラでも逃げるという意味です。

どのような災害でも、自分の命を守ることが一番大事です。

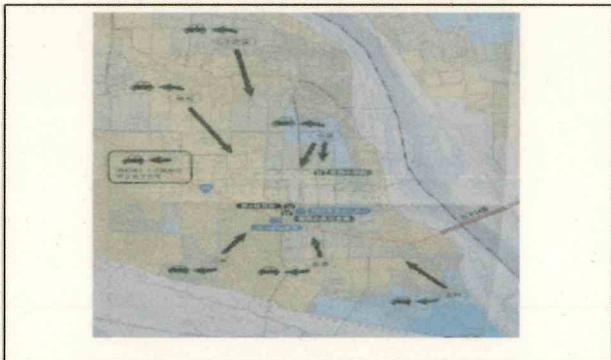
津波てんでんこ —津波災害発生時における行動指針—

必ず逃げる。逃げ遅れる。逃げ遅れる。逃げ遅れる。逃げ遅れる。

- 自分の命は自分で守る
- 自分がしっかり避難することで助かる
- 自分もそれぞれが的確に避難できる
 - 家族もそれぞれが的確に避難できる
 - 避難行動が周囲の避難を促す

相互信頼の上に成り立つ避難

- ・うちの子はきつと逃げている
- ・あの場所に行ったら家族に会える
- ・いつも話しているように逃げているはずだ
- ・あの人たちが逃げているのだから逃げよう



おわりに

【この町が誇る玉村町の歴史】

- ◇ 生活文化の宝庫
- ◇ 人と人をつなぐ絆
- ◇ 学びの場
- ◇ 常々の備えと訓練

みなさんは、玉村は海がないから大丈夫と思っていませんか。海はなくても、川の氾濫による被害も考えられます。

芝根地区は、利根川と烏川の合流地点にあります。川が氾濫しなければいいですが、100%の保証はありません。どこに逃げたらよいのでしょうか。

まずは、高い場所に逃げることです。学校で言えば、3階に逃げるのが大切です。玉村町の洪水ハザードマップを見ると、車であれば県立女子大学に逃げるように指示されています。歩きであれば、芝根小学校です。覚えておきましょう。

この地震で学ぶことがいっぱいあります。

- ① 普段からの準備や訓練が大切である。
- ② 学ぶことが当たり前と思われていますが、学べないつらさもある。

これで、私のお話を終わりにします。